取扱説明書

モノタロウ

エアーインパクトレンチ (高トルクタイプ、ツインハンマー)

注文コード 55598208

このたびは、エアーインパクトレンチ(高トルクタイプ、ツインハンマー)をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
ご使用前に本書を必ずお読みのうえ、正しく安全にご使用ください。

1. 仕様

項目	値
タイプ：	ツインハンマー
仕様：	正回転(3段階)
	約1627N・m/5秒(5000min^{-1})
	約1485N・m/5秒(5500min^{-1})
	約918N・m/5秒(3500min^{-1})
	逆回転(約1627・m/5秒(5500min^{-1})
最大トルク(N・m)：	2033/15秒
実用トルク範囲(N・m)：	918～1627
無負荷回転数(min^{-1}[r.p.m])：	5500
空気消費量(L/min)：	198
使用空気圧力(MPa)：	0.62
差込角(mm[inch])：	19(3/4)
空気接続口：	PT3/8
使用ホース径(φmm)：	9.5
質量(kg)：	3.7
付属品：	PT3/8カプラー、防じんキャップ（取付済）

2. 安全にお使いいただくために

⚠警告 この表示内容を無視して誤った使い方をした場合は、死亡や重症などの重大な障害に結びつく可能性があります。

⚠注意 この表示内容を無視して誤った使い方をした場合は人的傷害や製品の破損、その他の物的損害へつながる可能性があります。

3. ご使用方法

■使用前の注意

□作動環境 ⚠警告

●使用前に点検を行ってください。主軸、ねじ山、クランピング装置は定期的に点検し、損耗や研磨製品を配置する場所の耐性を確認してください。
●本製品は自動車などの整備、一般製品・部品の分解・組立時のねじの脱着作業のみに使用してください。
●適切な空気圧で使用してください。使用中は0.62MPaにすることをおすすめします。指定空気圧以上で使用すると、性能は上がりますが摩損が早まり、製品の破損・事故の原因になります。圧力計や減圧弁等を併用し、必ず適切な空気圧で使用してください。
●動力源は、エアーコンプレッサによる圧縮空気です。エアコンプレッサー以外の動力源を使用すると爆発の危険があります。
●安全性、最高性能、部品の最大耐久性を維持するために、使用ホース径に記載してあるエアーホースを使用してください。
エアーホースはゴミの混入に注意し、取付けてください。確実に取付けないと、エアーホースが外れ、エアー噴出によりエアーホースが暴れる危険があります。

□作業環境 ⚠警告

●エアーツールの取付け・操作・点検修理、アタッチメントの取替え前、また、本製品の近くで作業するときは、本書をよく読み理解してください。
●作業場所は整頓し、十分な日光か照明が当たるようにしてください。作業する台の上は何も置かないようにしてください。物があると事故を引き起こす可能性があります。
●爆発の可能性があるエアーツールのエア供給に酸素や可燃性ガスを使用しないでください。火花で引火して火事や爆発を起こす危険性があります。
●引火性液体、洗浄溶剤、流体エネルギー、保管ガスがあるなど、爆発の可能性がある環境では使用しないでください。

□作業時 ⚠警告

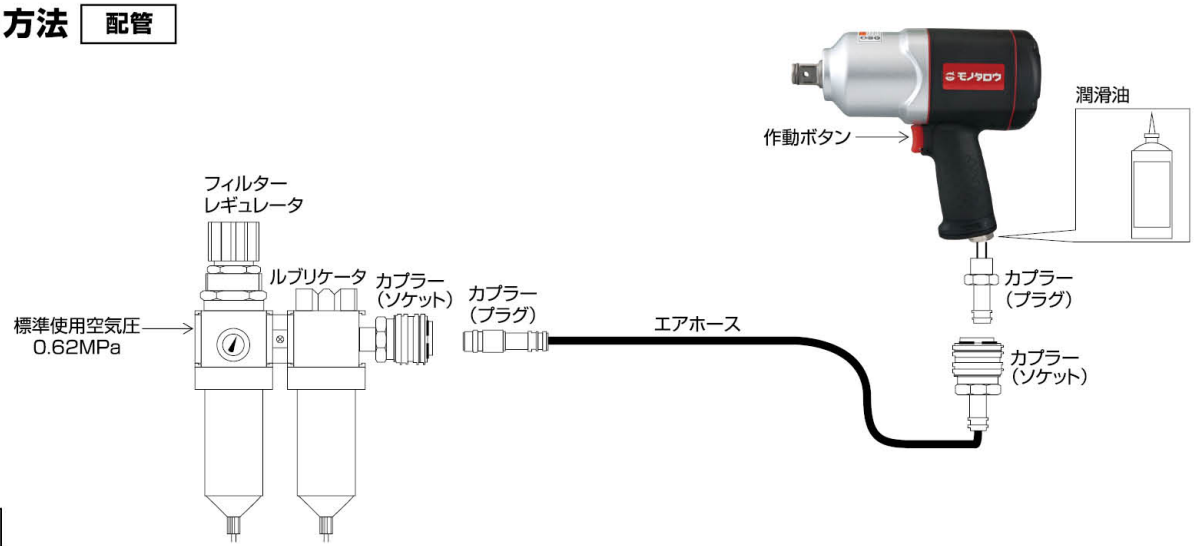
●絶対に改造しないでください。改造は事故の原因になり、作業者への危険性も大きくなります。
●用途以外に使用しないでください。事故の原因になります。
●取付けの部品を外さないでください。取外しての使用は、事故の原因になります。
●適切な作業服を着用し作業してください。可動部に手や布などを近づけないでください。
●必要に応じて作業保護具（ヘルメット、耳栓、保護メガネ、マスク、手袋、安全靴）を着用し作業してください。
作業位置が80dB(A)以上になる場合は、必ず耳栓を使用してください。
●ワークが飛び作業者が怪我するおそれがあるので、ワークが動かないように確実に固定してから作業してください。
●作動ボタンが停止位置になっていることを確認してください。
●先端工具が外れて飛んでしまいケガをするおそれや、故障の原因になりますので、無負荷で動作をさせないでください。
●作業中は反動や跳ね返りに備え、しっかり持ち安全な姿勢を保ってください。
●高所作業では作業中に落下することが絶対にないように注意してください。
●電気絶縁性はありません。感電のおそれがある場合は、絶対に使用しないでください。
●異常や危険を感じた場合は、ただちにエアー供給を止め、使用を中止し点検や修理を行ってください。

■使用方法の注意

□作業時 ⚠注意

●使用する前に、エアー供給部が正しく接続されていることを確認してください。必ず連結部をソケットにはめ込んでからエアーツールを作動してください。
●作業は十分注意をして行ってください。
●使用中は目を離さないでください。
●過負荷での無理な使用はエアーツールの破損や故障の原因になりますので、おやめください。
●先端の差込角は安全のためソケットが抜けにくいように設計しています。そのため、一部のソケットにおいては抜けにくい場合があります。
●作業関係者以外は触らせないでください。
●投げたり落としたりしないように注意してください。特に高所作業での落下には注意してください。
●停電した時は、作動ボタンから指を離してください。
●狭いスペースで作業しないでください。特にねじを緩めているときは、エアーツールとワークの間に手が挟まらないように注意してください。
●長時間作業しないでください。また作業中、手、腕、肩、首など身体の一部に不快感や疲労を感じた場合は、姿勢を変えたり休憩してください。
●切傷、火傷、振動によるケガを招くおそれがありますので、作業中にソケットやアタッチメントに触らないでください。
●使用によって床がオイルで滑りやすくなったりエアーラインや油圧ホースによるつまずきに注意してください。
●排気を人に向けないでください。
●エアホースの跳ねに注意してください
●エアーホースの破損は事故の原因になりますので、丁寧に取扱ってください。
●回転方向を必ず確認してください。回転方向の切り替えは必ず停止した状態で行ってください。
●ソケットはボルト・ナットなどに確実に挿入してから使用してください。外れると非常に危険です。

■使用方法 配管



⚠警告

●使用空気圧は、0.62MPaを超えないようにしてください。
　指定空気圧以上で使用する場合、性能を上げますが摩損が早まり、製品の破損・事故の原因になります。
●清浄な乾燥した圧縮空気を供給してください。
　エアーホース内のほこり、腐食性の粉じんおよび水などは、製品の破損・事故の原因になります。
●適時に潤滑油を給油してください。給油を行わないと、錆や摩耗により故障・事故の原因になります。
　清浄で潤滑されたエア供給を適正な圧力で行うために、エアフィルター、レギュレータ、ルブリケータ（FRL)は、上図のとおりに使用してください。
　これらの装置の詳細は装置の製造業者にお問合せください。装置を使用しない時に注油するには、エア供給を停止し、エアーツールを押してエアーを減圧した後、エアーラインの接続を外して、吸気口に小さじ1杯（5mL）の潤滑油を注ぎます。その際、防錆剤を混ぜると効果的です。
●正逆回転切替スイッチの設定を行ってください。背面の赤い切替スイッチを回して設定してください。
●しっかりと持ってください。その後、作動ボタンを押すと作動します。
●作業終了時、エアーコンプレッサーの空気圧をゼロにして、エアーホースを外します。
●長期間使用しない場合は、防じんキャップでホコリなどが入らないよう栓をしてください。

■先端工具の取付け、取替

●エアー供給を中止し、エアーホースを外してから取付・取替を行ってください。
●破損して飛び散ることによりケガをするおそれがありますので、先端工具（ソケットなど）は必ず動力工具用のものを使用してください。
●先端工具は確実にエアーツールに取付けをしてください。先端工具を取付けた後に軽く引っ張り、抜けないことを確認してください。
●先端工具の点検を必ず行ってください。

■給油方法 ⚠注意

●作動ボタンを押して、エアーツール本体の空気接続口よりオイルを2～3滴注入してください。
●エアホースを接続して、約3～5秒間空運転をしてオイルをエアーツール内になじませてください。
　※オイルを入れ過ぎると、排気口からオイルが噴出します。本体をタオルで覆い、人や物から離して作動させてください。
　※圧縮空気中には、水分が含まれています。そのため、長時間使用せず放置すると、本体内部に錆が発生し作動できなくなる場合がありますので
　　使用後は必ず給油を行ってください。

■保守・点検

●使用しない時は、乾燥した場所で鍵をかけるか、子どもの手の届かない高い場所に保管してください。
●使用しない時やアタッチメントの交換、エアーツールの修理を行う際は、必ずエア供給を停止してホースから空圧を抜き、エアーツールをエアー供給元（エアーホースなど）から取外してください。
●製品寿命を長持ちさせるために使用後注油が必要です。エアモーターとベアリングは圧縮空気を使ってエアーツールを始動させます。
　圧縮空気中にある水分はモーターに錆を生じさせます。モーターは毎日注油してください。保管する前にエアーツールに注油し、数秒作動させてください。
●手入れを行わずに放置すると、内部に残留した水分が原因で錆が生じます。

株式会社 MonotaRO https://www.monotaro.com/ TEL:0120-443-509
MADE IN TAIWAN
更新日 2017.06.06